

- 第1章 -

B 君の ” CARTOONIST ” 旅人日記

～当時、フランスを代表したイベントの功罪～

今回、フランスのイベント事情に詳しい B 君に当時、フランスを代表するイベントであった “ CARTOONIST ” について、レポートをお願いしました。彼は実在の人で、現在彼はフランスのイベント（”JAPAN EXPO”など）で重要な役回りを務めています。

“ CARTOONIST ” は当時のフランスを代表する最も大きなイベントの一つで、現在も開催されている”JAPAN EXPO”より歴史的には古く、だいたい年に2回ほどの頻度でフランス各地を開催地として展開していました。当時から日本の有名作家をゲストとして招聘するなど、現在のフランスにおける大型イベントの先駆的な存在でもありました。

そのイベントは現在では開催されておりません。何があったのか？ B 君に当時参加した時の様子を思い出してもらい、イベントがなぜ終ってしまったのか？だいたいのところをレポートにまとめて頂きました。それはフランスにおけるイベントの開催時の様子や、ファンの心理・行動などに、日本のそれと同じ点や違う点があるのではないかと思ったからです、どうでしょうか？

『 ” CARTOONIST ” の思い出』

私が初めて参加したイベントは ” CARTOONIST ” という当時フランスでは最大級のアニメ・マンガ・イベントでした。その時の開催地は Toulon という南フランスはプロヴァンス地方の港町で、フランス海軍の軍港もある街です。” CARTOONIST ” はその他、ブルターニュ地方の Brest という港町などでも開催していました。Brest はフランス海軍最大の軍港を抱えており、当時フランスでは徴兵制が施行され、兵役に服する人達向けに ”CARTOONIST ” が開催されていたとも言われていました。尚、現在ではフランスに徴兵制はなく、志願兵制です。

” CARTOONIST ” はだいたい年2回、主に南フランスを中心にフランスの各地を転戦するように開催されていました。

私は Menton という街から電車で2時間30分掛けて Toulon まで行きました。イベント会場は、街の真中にある ”Palais Neptune” (ネプチューン宮殿) というコンベンション・ホールです。港からだと徒歩5分ほどで着きますが、車を利用しようとするのが困難です。Toulon には大きなホテルが少なく、庶民的な小さな宿がいくつかありました。それで ”CARTOONIST ” が開催されると元々宿泊施設が多くないことから、フランスはもとより、イタリアなどのヨーロッパ各地から来場者が来るために多くのホテルや宿は満室状態となりました。

イベント ” **CARTOONIST** ” の開場時間は午前 1 0 時 0 0 分からで、これは現在の ” **JAPAN EXPO** ” などのイベントも同じです。当時の会場全体の感じは、現在でも開催が続いている ” **Epitanime** ” に似ていたと思います。プロの店の出展とアマチュアの **Fanzine** サークルの出展が半々くらいで、ファン同士の交流の場となっていました。しかし、” **CARTOONIST** ” はその後成長を続け、出展者数、来場者人数とも、” **Epitanime** ” よりも大きなイベントへと発展して行きました。

当時は、現在のフランスにおける日本のアニメ・マンガ・イベントほどの盛況ぶりではなかった事もあり、前売り券などの入場券が手元にあれば、大体 2 0 分くらいで入場できました。しかし、入場券を当日会場で買う場合は 5 0 分くらいは待たされました。私は幸い大会に知合いがいたせいもあって、列に並ばずに直に会場へ入る事ができました。これでもフランスの人達は一般に日本の人達より列に並ぶことが好きな方ではありませんでしたので、当時としてはたいへんな事だったのです。

会場の中では、現在でもパリ市内に店舗を持つ ” **Atomic Club** ” という日本のアニメ・マンガを専門に扱う店が、その当時日本のマンガの翻訳出版も手掛けていて、「ジョージィ！」という作品の作家さんがゲストで参加していました。

出展している店が商品に付けている値段は、当時としては妥当な価格であったという印象です。当時は、現在使われている通貨の **Euro** (ユーロ) ではなく、**Franc** (フラン) でした。確かに日本で同じ物を買えば日本の方が安く入手できたと思いますが、日本は当時からするとかなり遠い外国で、そうそう気安く行ける国でもなかったのです。特に日本のアニメやマンガ、ゲームなどに熱狂するのは若者が中心ですが、フランスの若者は日本の同年代の人達に比べ、自分で管理・運用できるお金は少ないと思います。ですから、憧れの日本に行きたいのはやまやまですが、高い旅費を使って日本へ行く事は人生の一大事でもありました。

しかし、出展している店の中にはかなりボッタクリな値段を付ける店もあり、今から思えば、当時から海賊版と思しき商品を並べる店も少なくなかったと思います。出展している店への支払いは現金のみでクレジットカードは受け付けてくれません。日本より一般に普及している **Cheque** (チェック=小切手) も、店ごとによってその対応はまちまちでした。

日本から、フランスのイベントにサークルで参加される方は、**Cheque** による支払いを受ける事は避けるべきだと思います。もらっても、日本の銀行では換金に対応できないと思います。

また、当時から既に日本の同人誌に相当する ” **Fanzine** ” (ファンジン) とそのサークルがあり、それは会場のおよそ半分くらいを占めていました。当時は、現在ではフランスを代表するアニメ情報誌である ” **Anime Land** ” 誌がプロになったばかりの頃でした。また、会場内で上映される映画作品も、およそ 7 割がアマチュア作品で、中には日本でも有名な「フランス・ファイヴ」という戦隊ものを作っていたサークルが盛んに活動していたの

もこの頃です。

現在では、当時の ”Fanzine” サークルの多くは活動を休止して消滅しましたが、中にはプロになった人達、サークルもあります (Cardona とか、Sentai School 等)。また、映画制作に情熱を入れて参加していた人達の中には、現在ではその実力を業界で認められるほどにまでなったものもいます。先程の「フランス・ファイヴ」を制作していた中核メンバーも、現在では ”NOLIFE TV” というインターネット TV の会社を立ち上げ、活動しています。アマチュアが自主制作の作品を発表する貴重な良い機会でもあったのです。

会場内で気になる事といえば、日本人ではない作家さんは全くと言ってよいほどに注目されないことでした。例えば、「Il etait une fois...」の絵描きさんから、私はサインをもらいました。しかし、来場者の多くの人達はその時ゲストに来ていた美樹本晴彦先生のサインを欲しがりました。(私は幸いにも、美樹本先生のサインももらうことに成功しました)

“CARTOONIST” は当時フランスを代表する大きなイベントで、特に南フランスで開催される日本のアニメ・マンガ・イベントで大きなイベントといえば ”CARTOONIST” だけしかなく、イタリアやスイスなどの近隣国からも来場者がありました。私達ファンにとって一年のうちでは絶対に外せないイベントで、特に私をはじめとしたプロヴァンス人にとって、遠路遙々パリからやってくる来場者とは違い、南フランスに住んでいた事もある自分たちは特別に恵まれていることを実感できました。

そういえば、コスプレ大会で優勝賞品が与えられるようになった最初のものは、この ”CARTOONIST” においてです。日本で俗に言うところの「パンチラ」と言われるようなイタいポーズが初めて舞台上で披露されたものが最初でした。その後、その技 (ポーズ) は各イベントのコスプレ大会では定番となりました。元ネタは「不思議の海のナディア」からで、ナディアのコスプレをした女の子がはりきって壇上での演技の中でこのポーズをした事により、多くの観客の印象に残り、フランスのコスプレ史に残る伝説的結果となったのです。最終的には彼女が優勝し、その時は何と「日本旅行」が優勝賞品として贈呈されました。(しかしながら、実際に日本へ旅行に行ったかは不明です・・・) 私は翌年、彼女とコスプレ大会に出場する予定でしたが、準備不足のために諦めざるを得ませんでした。コスプレ大会は毎回人込みが多く、あまり見ることはできませんでした。

2000年に、フランスの旅客交通機関である SNCF に勤めていた人が、「ホテル代+電車賃+入場券」で600FF (フラン) のパック旅行を提案しました。しかし、Toulon に着いたところ、SNCF スタッフの対応がほとんどなかったために、やむなく私が案内役を務める事にしました (何故なら、私は Toulon に住んでいた事があったからです)。そのため、SNCF に対し、苦情を出した人がいるとの噂がありました。

また、パリから来た若い人達にとって遊べるところが BAR 以外は何もなかったため、中にはイベントが終ってから飲み会を開いて酔い潰れて寝てしまい、そのせいで Toulon 市役所と問題が起きた事がありました。幸い大事には至りませんでした。

イベントが終ってから帰るのも大変で、帰りの列車では誰もが「バカ組」と呼ばれた連

中とは同じ列車に乗りたくなかったものです。「バカ組」とは、正に場をわきまえずにアニソンを大声で歌うようなヲタク丸出しの連中で、行きの列車から既にアニソンを歌いまくっていたために相当目立っていました。誰もが本当に彼等との合席を嫌がりました。また、列車の座席数やスペースも少なく、私は帰路で已むなく荷物を入れておくスペースで寝た事もあります。

でも、何だかんだといっても、当時は本当に楽しかった良い思い出ばかりです。

2001年、パリの19区 La Villette で開催された“**CARTOONIST Paris**“は悲惨なものでした。他のイベントも同時開催であったため、セキュリティによる規制が厳しく、入場が非常に難しくなっていました。その頃になるとプロの企業出展が多くなり、会場の出展比率は商業目的の企業出展が全体の80%くらいで、アマチュアの**Fanzine**スペースは20%くらいまでになりました。これは、**Fanzine**サークルの数が極端に減ったのではなく、プロの出展数が増えた事によります。正直、イベントの様子や雰囲気なども以前とは変わってしまい、私としては楽しくはありませんでした。

『何故、終ってしまったのか？』

さて、一方では“**CARTOONIST**“の主催者は開催地の Marseille 市と Toulouse 市の役所に対し、借金や不払い等の揉め事があり、その地での開催が不可能となりました。挙句の果てには、イベント自体が無残につぶれました事により、南フランス地方でのイベント開催を期待していた多く人達の期待や信用を裏切り、落胆した人も少なくなかったのです。（次章の“**J.S.**”問題が発生するバックグラウンドにもなった問題です）

また、“**Cartoonist Paris 2002**”では、フランスでたいへんな人気を誇ったアニメ「聖闘士星矢」で「ハーデス」のフランス製のプラモデルを作った J.A.氏がゲストとして招待されました。そこで、いろいろアニメ版「聖闘士星矢」のキャラクター・デザインで有名な「荒木 伸吾先生」風のイラストをサイン会に出していましたが、数ヶ月後、突然“**eBay**”のオークションで、そのイラストの一つが商品として出品されているのを目撃されてしまいました。如何わしく思った人の中で、更に調査を進めたところ、出品者でそのサインをもらった人の名前を調べてみた結果、驚いた事に“**Cartoonist**“主催者の名前だった事が判明したのです。そのせいで、既に相当の汚名を受けることになってしまっていた主催者の O.G.氏は、さらに汚名の上塗りをすることとなり、事実上“**CARTOONIST**“はその歴史の幕を閉じる事となりました。